

ここまでわかった
鞠智城
第1号

鞠智城の
あらまし





鞠智城は、大陸との緊張が増すなか、大和朝廷が築いた古代山城のひとつ。

鞠智城は7世紀後半、今から約1300年前に大和朝廷によって築城された古代山城です。660年、唐と新羅の連合軍によって、日本と友好関係にあった百済が滅ぼされます。日本は百済に援軍を送り込みますが663年に白村江の戦いで大敗。その結果、唐・新羅から日本が侵攻の危機にさらされることになりました。

そこで大和朝廷は西日本の各地に城を築いて防衛体制を整えたのです。鞠智城の築城に関する正確な年代は判明していませんが、大宰府政庁防衛のために築かれた大野城や基肄城と同じ665年ごろに造られたと考えられます。



鞠智城の変遷

8世紀
第4前半紀
鞠智城の
変革期

IV期

9世紀
第4後半紀
鞠智城の
終末期

V期

10世紀
第3後半紀
鞠智城の
廃城

築城には朝鮮半島の技術が ふんだんに使われた。

鞠智城跡では国内の古代山城で唯一、朝鮮半島の山城でもみられる八角形建物跡が発見されていることや、版築工法で土塁が築かれていることからわかるように、築城にあたって朝鮮半島の最新技術がふんだんに使われています。

貯水池跡から発見された百済系の銅造菩薩立像は、その大きさから念持仏と考えられ、百済の高官が築城の指導などで鞠智城を訪れた際に持ち込んだものと推察されます。

また、出土した軒丸瓦には、朝鮮半島の様式を受け継ぐ単弁八葉蓮華文と呼ばれる文様が施されています。



銅造菩薩立像、軒丸瓦



菊鹿盆地を一望する南方の眺め(灰塚より)

7世紀第3四半紀
鞠智城の築城

I期

大宰府から60km南に位置、兵站基地として、「隼人」対策の拠点としても機能していた？

鞠智城は熊本県北部、山鹿市と菊池市にまたがって所在しています。ここは大宰府政庁から直線距離で60kmあまりとやや距離が離れていることから、大宰府政庁を直接守るために築かれた大野城や基肄城とは役割が異なると考えられています。

この一帯は古代から穀倉地帯として知られており、また「車路」と呼ばれる官道が通る交通の要衝となっていることから、鞠智城は、大宰府に武器や食糧を供給する兵站基地の役割を担っていたのではないかと考えられます。

さらに、鞠智城は古代山城の中で最も南に位置しています。所在地は、菊池川の北岸にある米原台地上にあたり、南側の広大な平野部や遠くは雲仙島原の山々まで見渡せることなどからも、朝鮮半島からの侵攻に対するだけでなく、南方の「隼人」に対する抑えの拠点としても機能していたのではないかと推察されています。

7世紀末
鞠智城の最盛期

II期

8世紀
第1四半紀後半
鞠智城の
転換期

III期

鞠智城は、7世紀後半から10世紀半ばまで、約300年間も存続した。

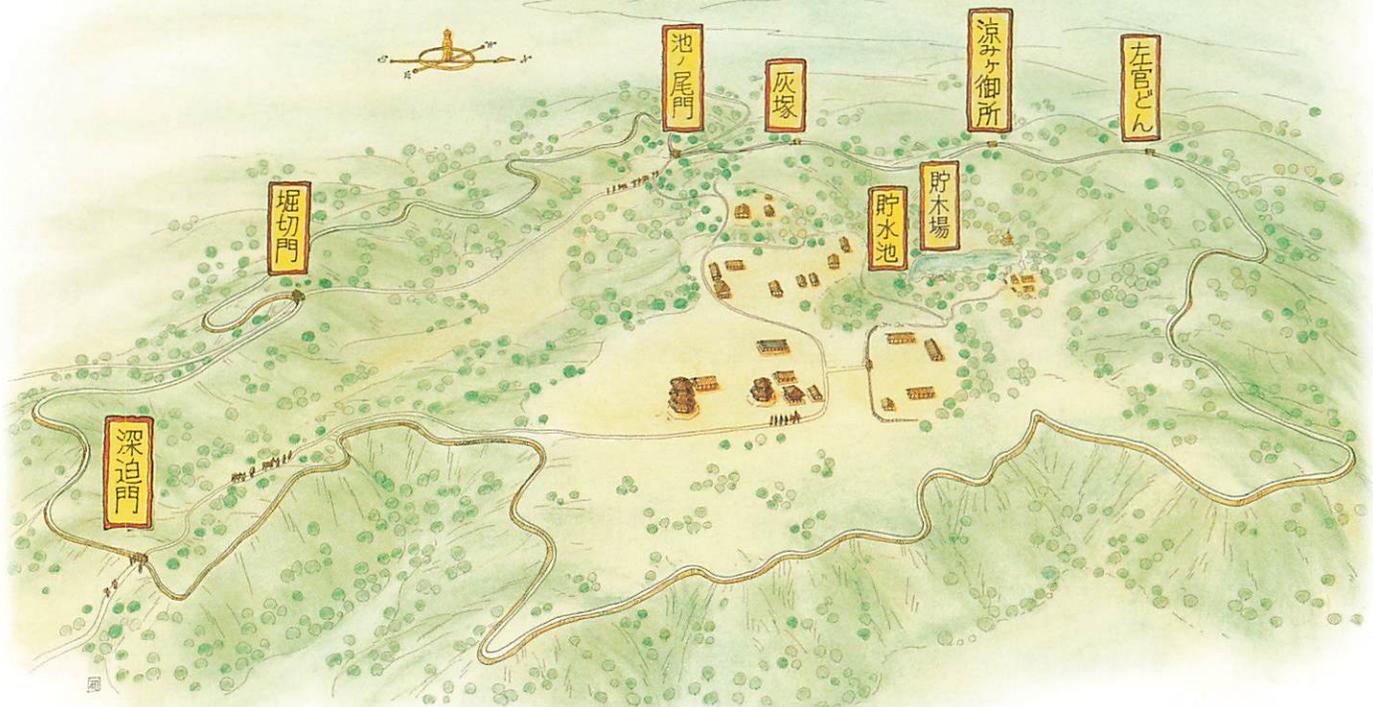
鞠智城が初めて文献に登場するのは『続日本紀』で、698年大宰府に大野城、基肄城、鞠智城を修理させたという記事です。

その後、『文徳実録』には、858年、菊池城院の兵庫(武器庫)の鼓が勝手に鳴ったという記録が残されています(この記事から「鞠智」の字が「菊池」に変わる)。また、菊池城院の不動倉(米倉)が火災にあったと書かれています。

そして『三代実録』に、879年、再び菊池城院の兵庫の戸が勝手に鳴ると書かれています。この記事を最後に鞠智城の存在は文献から姿を消しますが、発掘調査の結果、その後も鞠智城は存続し、900年代の半ばまで続いていたと考えられています。

臣等遣使廣武文忌寸博士等八人于南嶋壹國因給戎
戊午奉馬于芳野水分半神祈雨也五月庚申朔諸國甲因奉
幣帛于諸社甲子遣使于京畿祈雨於名山大川山支遣使于
諸國巡監田疇甲申全大宰府送治大野基肄鞠智三城六月
丙申近江國獻白契石云寅越後國蝦伏獻方物丙辰奉馬于
諸社祈雨也丁巳直廣冬田中朝臣足登卒 詔贈直廣壹以
壬申年功也秋七月朔日有蝕之且以云私收得已區民間
或有客止不肯踰者於是始制答法令償其功布在刑式又某
博戲遊手之徒其居停主人亦与居同罪也 壬下野備前二國
獻赤烏伊豫國獻白鶴參未以直廣肆高橋朝臣嶋麻呂為伊
勢守直廣肆石川朝臣小虎為美濃守 丙子豫國獻錫鏡八
月戊子朔茨田足鴻賜姓連丙午詔曰藤原朝臣足賜之姓置

『続日本紀』に記載された鞠智城の記事



鞠智城の全貌

鞠智城は周長約 3.5km、面積約 55ha、標高 90~171m の範囲が真の城域となっています。城域の中央付近では古代山城では国内初となる八角形建物跡をはじめとする 72 棟の建物跡や貯水池跡などが、外周では城門跡や土塁跡など当時の姿を物語る貴重な遺構が相次いで発見されています。



八角形鼓楼

国内古代山城では唯一の八角形建物跡。中心に心柱を据え、その周囲に八角形に配置された柱が三重に巡っています。様々な検討を基に復元しています。



兵舎

三間(7.8m)×十間(26.5m)の長屋風の建物で、約50人が寝泊まりしていたようです。2棟が並列していたことから、常時100人の兵士がいたと考えられます。



貯水池跡

鞠智城内では貯水池跡も見つかっており、水汲み場などの遺構が確認されています。銅造菩薩立像や木簡をはじめ重要遺物が出土しています。



土塁

鞠智城の外周部分には、土を何度も突き固め強固な壁をつくる版築という大陸伝来の技法で造られた土塁の一部が当時のままに残されています。



堀切門跡

現在確認されている3つの城門のうちの一つで、門跡や道路跡などが確認されています。門柱を据えるための礎石が出土しています。



深迫門跡

堀切門と同じく城域の南側に設置されていた門跡で、門の両側で版築土塁が確認されています。こちらでも礎石が出土しています。



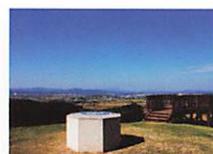
池ノ尾門跡

鞠智城内で唯一、石塁と暗渠状の通水溝が見つかりました。幅9.6mの石塁を谷部を塞ぐようにして構築し、防衛のための施設としていました。



貯木場跡

貯水池の一部が貯木場として使われており、建物の建設や補修のための木材が保管されていました。斧の柄などの木製農具も出土しています。



灰塚

鞠智城内で標高が高い場所で、360度視界が広がります。特に南、南西方向は見通しがよく、鞠鹿盆地や雲仙普賢岳まで望むことができます。

この電子書籍は、ここまでわかった鞠智城 1 を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、古代山城がある市町村教育委員会、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：ここまでわかった鞠智城 1 鞠智城のあらまし

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話： 096-383-1111

URL：<http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：西暦 2002 年 8 月 18 日